

由比若宮

由比若宮は鎌倉の八幡信仰の発祥の地です。「元八幡」とも呼ばれるこの宮は、京の帝に武将として仕えた源頼義（988-1075）が 1063 年に創建しました。1051 年、頼義は侍の謀反を制圧するため東北地方へと送られます。京を発つ際、頼義は源氏の守護神で祖先でもある八幡大神に必勝を祈願しました。12 年におよぶ戦いを制した頼義は京へ帰る途中鎌倉に立ち寄り、そのとき八幡大神への感謝のしるしとして祀ったのが由比若宮です。

その 1 世紀以上のちの 1180 年、頼義の子孫である源頼朝（1147-1199）が新たに打ち立てた幕府の拠点を鎌倉に置きました。頼朝は町を広げ、その信仰の中心として鶴岡八幡宮を創建しました。こうして信仰の中心地は鶴岡八幡宮へと移り、頼義が祀った簡素な神社は創建当時と同じ場所に残されました。